

東洋学園

東洋学園の校友をつなぐ

だより

平成29年

Vol.6

CONTENTS

- 新理事長・学園長のごあいさつ……………1
- 大学開学25周年にあたって……………2
- 2017年上半年期ニュース／学生団体の活動…3
- 教員メッセージ……………4
- 社会で輝く卒業生……………5
- 教育振興資金のお願い／東洋学園の歴史…6
- 大学院／入試……………7
- インフォメーション……………8

愛知太郎理事長

「時代の変化を見据えながら よりよく進化する大学に」

本学の創立者である宇田尚先生の曾孫にあたり、東洋女子短期大学第2代学長・愛知揆一先生の孫でもある愛知太郎先生が2017年4月より理事長に就任。今後の抱負や校友の皆様へのメッセージをうかがいました。



学校法人東洋学園理事長
愛知 太郎

東京大学大学院工学系研究科金属工学専攻修士課程修了、東北大学大学院環境科学研究科博士課程後期修了。学術博士。同和鉱業株式会社、DOWAメタルマイン株式会社等に勤務、学校法人東洋学園評議員、理事を経て現職。

学校法人の安定経営を目指して

2017年4月に理事長に就任いたしました愛知太郎です。短大の第2代学長を務めた私の祖父・揆一は、のちに文部大臣に就任した際、“未来からの呼びかけに応える教育”をスローガンに掲げておりました。私も祖父と同様に、これからの世を背負う若者の成長をお手伝いしたいと思っています。

理事長としての私の役目は、学校法人の安定経営だと考えております。本学は東京・本郷にキャンパスを集約したことで、2016年度からは定員の入学者を確保できており、しばらくは良い流れが続くと予想されます。しかし同時に、学内が混雑するなどの課題も見え始めてきています。私は前職がエンジニアですから、その強みを生かしてインフラ整備に力を入れるなど、よりよい教育環境作りを迅速に進めていきたいと思っています。

今は追い風の中にいる本学ですが、近い将来、

少子化の影響で大学進学者数が減ることは目に見えています。そのような状況下で入学者を確保するためには、学生にとって魅力となる教育や環境を常に提供していくことが求められます。新しいことを始めるにはリスクも伴いますが、動かなければ前に進むことはできません。ですから、教職員の意見も取り入れつつ「まずはやってみる」の精神でいろいろな施策を試してみたいと考えています。たとえば、2018年度から「英語資格試験利用特別入学試験」を新設し、その選考結果により特待生を認定するという試みも新たなチャレンジの一つです。

校友の皆様との絆を大切に

本学は、法人としては2016年に創立90周年を迎えましたが、4年制大学としては25周年という比較的若い大学であり、実績や知名度では前身の東洋女子短期大学に及ばないところがあります。この先、生き残っていくためには認知度を高めることが

不可欠であり、そのために最も有効なのは卒業生の皆様に社会で活躍していただくことです。そして、ご活躍の様子をぜひお知らせください。在校生にとって就職活動の励みにもなります。

また、公開講座や学園祭などの機会にご来学いただいたり、飛躍を続けるテニス部や野球部などの応援にお越しいただければ大変ありがたく、学生たちのさらなる活躍にもつながることでしょう。今年、「東洋学園大学開学25周年記念講演 過去と未来をつなぐ日」と題した特別イベント（詳細はP2）を開催し、25年分の先輩・後輩・教職員が本郷キャンパスに集いましたが、これからも校友の皆様との絆を深めるイベントなどを定期的に企画していけたらと考えております。

90周年を機に“都心の大学”として新たなスタートを切り、100周年に向けてさらなる進化を続ける本学。今後とも、校友の皆様のご協力とアドバイスをいただければ幸いです。

江澤雄一学園長

「これまでの伝統と絆を 受け継ぎつつ未来へ」

2003年から理事長を務めてこられた江澤雄一先生は、2017年4月より学園長に。江澤先生が思い描く今後の学園の在り方や学園長としての抱負、さらに、在学生や卒業生への想いも語っていただきました。



学校法人東洋学園学園長
江澤 雄一

東京大学法学部卒。大蔵省国際金融局長、UBS銀行グループ日本代表兼副会長、東洋学園理事長等を経て2017年4月より現職。ハーバード大学行政学修士。

学生の国際舞台での飛躍を願って

14年間務めた理事長を退任し、本年より学園長に就任しました。学園長の役目は、建学の精神と校風の維持であり、学園が進むべき方向を広い視野で考えるということではないかと思えます。幸いにして立派な新理事長を得ることができましたので、今後はさまざまな側面からサポートしてまいります。

本学は短大時代から英語教育の伝統があり、現在も国際教育と教養教育を柱として国際人の育成に力を入れています。その最たるものが国際キャリアプログラム(ICP)です。日本社会は今、グローバル化が進展しており、あらゆる分野で外国との関わりが不可欠となっています。また、異文化の人々と交流することは、人生を豊かにすることにもつながります。学生たちには本学での学びを軸に、将来、

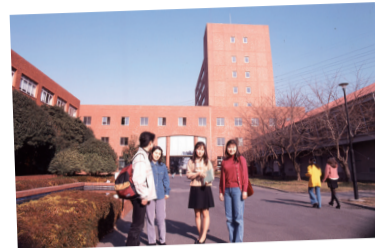
世界に羽ばたいてくれることを願っています。

本学は今年で創立91周年を迎え、その間、歯科医専、短大、そして4年制大学という変化を遂げてきましたが、すべての卒業生は東洋学園という絆で結ばれています。現在もホームカミングデーなどを開催して交流を深めていますが、今後は在学生と卒業生との“縦のつながり”を深められるようなイベントも企画していけたらと思います。

大学開学25周年にあたって

東洋学園大学は今年、開学25周年を迎えました！

歯科医専、短大を経て、1992年に男女共学の4年制大学として開学した本学。2013年より3学部体制となり、昨年は全学部を本郷キャンパスに集約しました。25周年の今年は過去最多となる800名近い入学者を迎え、発展を続けています。



初期の流山キャンパス



大学開学祝賀会

開学25周年によせて——
原田規梭子学長からのメッセージ

「学園の発展のために貢献いただいた すべての方に感謝申し上げます」

東洋学園大学学長
原田 規梭子

東洋学園大学は1992年4月、流山の地に人文学部（英米言語学科と英米地域研究学科）という1学部2学科体制で開学しました。両学科とも短大で培われた英語教育、地域研究が受け継がれ発展したものです。1992年は18歳人口がピークになった年であり、入学定員220名に対して3,000名を超える出願者があり、華々しいスタートを切りました。

流山キャンパスは広い敷地と緑豊かなキャンパスで、短大生と四大学生がキャンパスを共有し、賑やかなコミュニティが誕生しました。そして郊外型キャンパスとして、地域に密着した環境を徐々に整えていきました。学生たちの自治活動も少しずつ活発になり、学園祭「鱈鱈祭」を開催して地域の人々との絆を育みました。「鱈鱈祭」の規模は驚くほど大きくなり、最盛期には7,000人の参加者を集め、流山に定着しました。グラウンドも整備され、野球部、テニ

ス部の活躍は目覚ましいものがあり、現在に続いています。

やがて18歳人口の減少という大きな社会現象に直面し、大学は短大を閉校して4年制人文学部に人間科学科を新設、本郷に4年制の現代経営学部を開設するという大きな決断をしました。私も学園の改革プロジェクトの一員になり、宇田正長先生を中心に開設準備にあたりました。短大の閉校は悔しかったのですが、新しい学部を作る前向きな作業は楽しかった。2002年には文科省から認可が下り、宇田先生が学長・理事長に就任され、さあこれからというときに共に闘った宇田先生が急逝され、学園全体が大きな喪失感に包まれました。東洋学園大学が今あるのは、彼による大きな決断のおかげであると思っています。

その後、現在の3学部体制になり、大きな改革を変遷し、2016年度より全学部の学生が本郷で学ぶ体制に。

都心型キャンパスとして、教育環境も新たに整えることになりました。学際的な学部横断型プログラム「フェニックス・チャレンジ・プログラム」が誕生し、現在は観光ビジネス、児童英語、スポーツ・ビジネス、町おこしプログラムが走り始めています。

今年度は、学園の財産である英語教育のリソースを生かした「国際キャリアプログラム（ICP）」の卒業生を出すことになります。1年生からほとんどの科目を英語で受け、2年生後期から欧米に学部留学を行う彼らは、少数ではあるものの大きな成果を上げつつあります。

25周年を迎えるにあたり、多くの卒業生、教職員の顔が思い出されます。流山で学生生活を送った卒業生たちは本郷に少し違和感があるかもしれませんが、在学生たちは本郷で元気に頑張っています。これまで、学園の発展のために貢献いただいたすべての方に感謝を申し上げます。

東洋学園の沿革

1917年9月

前身・明華女子歯科医学講習所 開校
(後に歯科医学校→歯科医専へと)

1926年11月

東洋女子歯科医学専門学校 創立

1947年10月

旧制・東洋高等学校開校

1950年5月

東洋女子短期大学開学

1967年9月

流山キャンパス開設

1992年4月

流山キャンパスにて
東洋学園大学（人文学部）開学

第1回入学式

2002年4月

人文学部人間科学科、
現代経営学部現代経営学科設置

2008年4月

東洋学園大学大学院
現代経営研究科設置

2013年4月

グローバル・コミュニケーション
学部、人間科学部、現代経営学部
の3学部体制に

2014年4月

国際キャリアプログラム（ICP）
開始

2016年4月

就学キャンパスを本郷に統合

2016年11月

創立90周年

2017年4月

大学開学25周年

25回目の学園祭 「フェニックス祭 —郷郷祭り—」を開催！



全学部が本郷キャンパスに集う
学園祭は今年で2回目

「鱈鱈祭」と題し、長年にわたって流山で開催されてきた本学の学園祭。その伝統を受け継ぐ「フェニックス祭 —郷郷祭り—」が10/14（土）・15（日）に本郷で行われました。本郷に全学部が揃う学園祭は、昨年に続き2回目。今年は「25年目の挑戦 ～広げよう地域の和 つないでいく未来へ～」をスローガンに掲げ、学生団体の出展・展示やビジネスプレゼン大会、英語スピーチコンテストなどで大いに盛り上がりました。



近隣の皆様や高校生など、約1,300名が来場

東洋学園大学開学25周年記念講演

過去と未来をつなぐ日

25年分の先輩・後輩、教職員が集い絆を深めた特別イベント

10/15（日）には開学25周年を記念した特別イベントを実施。同イベントでは、創立当時を知る行方昭夫元学長（東洋学園大学 名誉教授・第2代学長）の記念講演をはじめ、卒業生らを招いたキャリア教育のパネルディスカッション、名刺交換会などを行い、25年分の先輩・後輩と教職員が交流を深めました。



1.原田学長のごあいさつ／2.愛知理事長（左）へ、大学同窓会からの寄付金を手渡す同窓会長（右）／3.行方先生の講演／4.平井先生（左から2番目）と卒業生3名（右側）によるパネルディスカッション

2017年上半期、学生たちの挑戦と成長

授業・ゼミでの海外研修や各種プロジェクト、国際キャリアプログラムでの学部留学、夏休みの短期留学など、さまざまな挑戦を通じて成長した学生たちの姿をお届けします。

授業やゼミを通じて異文化体験！ 夏の海外研修&インターンシップ

今夏、グローバル・コミュニケーション学部では、夏期集中科目の一つ「エコツーリズム論」の履修学生がラオスで観光業などを学んだほか、「言語学入門」と「日本語研究3」の学生がタイ・バンコクの2大学で日本語教育実習を実施。さらに、「国際環境協力ゼミ」と「児童英語教育ゼミ」は合同デンマーク合宿を行い、環境対策や教育について学びました。また、現代経営学部の後藤講師と学生有志6名は、ネパールで現地企業との商品開発プロジェクトに挑戦しました。



坂本ゼミ・古屋ゼミ合同のデンマーク合宿の様子

外国人観光客を英語でおもてなし 今年で3年目の「Shodo Experience」



「旅館 澤の屋」で行われたプロジェクトは大好評

現代経営学部の「マーケティング戦略ゼミ」と「プロジェクトマネジメント」（ともに本庄加代子准教授）の履修学生らが、外国人観光客に英語で書道を教える「Shodo Experience」を実施。今年で3年目となる同プロジェクトは、インバウンド市場に対するビジネス感覚を養うことを目的としています。今回は6月に全4回開催し、アメリカ、アジア、ヨーロッパをはじめ世界各地の観光客が参加。学生たちは冷や汗をかきながらも英語でのおもてなしを成功させ、自身の成長を実感したようです。

有機ELテレビのマーケティング戦略を 学生たちが考える産学連携プロジェクト

「LGが有機ELテレビを日本で売っていくには？」をテーマに、今年4月にスタートした「マーケティングとメディア研究ゼミ」（八塩圭子准教授）と目白大学、LG エレクトロニクス・ジャパン株式会社による産学連携マーケティング戦略プロジェクト。7月に中間プレゼンテーションが行われ、八塩ゼミの学生たちは独自のリサーチ結果を分析・発表しました。また、9月には八塩准教授とゼミ生有志が韓国のLG エレクトロニクス本社を訪問。工場の視察や重役の方々へのプレゼンテーションを行いました。



有機ELテレビのショールームで実物を見ながら学習も

児童養護施設のこどもの日イベントに 19名の学生がボランティア参加



毎年恒例となっているバルーンアートのコーナー

人間科学部の卒業生が児童指導員として働いている児童養護施設「こどものうち八栄寮」で開催された「こどもの日フェスティバル」に、人間科学部・塩谷隼平教授の紹介で19名の学生がボランティア参加。子どもの付き添い係やバルーンアートづくり、美化係などを担当し、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。

1年間の学部留学で大きく成長した ICP 2期生が帰国

昨年8月からアメリカ・ノースアラバマ大学に学部留学していた佐藤会沙（さとう あいしゃ）さんら国際キャリアプログラム（ICP）2期生が6月に帰国。1年間の学部留学を通じて現地の学生とともに学び、文化の異なる人とコミュニケーションする力や行動力も高まったようです。



写真の授業で、現地学生と協力して作品を作る佐藤さん（左）

夏休みを利用した短期留学プログラムで 語学力やグローバル感覚を身につける



イギリス・スウォンジー大学で留学生と交流する学生たち

今夏の短期語学留学は、イギリス・スウォンジー大学とオーストラリア・ボンド大学で実施され、多くの学生が参加しました。また、カンボジアでのインターンシップに参加した学生は、現地の日系旅行会社で就業体験をしたり、貧困に取り組むNPO法人を訪問しました。

学生団体活動レポート

各部活・サークルの活動内容をお伝えします。

男女テニス部

【関東学生テニス選手権（夏関）】

平成29年度関東学生テニス選手権大会（夏関）の女子シングルスで、3年の小松選手が見事優勝！ 関東学生での優勝は本学テニス部史上初であり、歴史的快挙です。

また、男子シングルスでは4年の古越選手、2年の神田選手、女子シングルスでは4年の根本選手、男子ダブルスでは熱田・小暮ペア、女子ダブルスでは小松・林ペアと根本・二宮ペアも本戦に出場しました。

- ◎女子シングルス 優勝 小松莉奈
- ◎女子ダブルス ベスト8 小松・林ペア
ベスト32 根本・二宮ペア

【全日本学生テニス選手権】

平成29年度全日本学生テニス選手権大会（インカレ）では、女子シングルスで3年の小松選手がベスト8入り、4年の根本選手がベスト32入りを果たし、さらに女子ダブルスで根本・小松ペアがベスト16入りしました。

男子は惜しくも本戦進出はなりませんが、シングルス及びダブルスの予選に4年の熱田選手と2年の神田選手が出演。神田選手が男子シングルス予選決勝まで進出しました。

- ◎女子シングルス ベスト8 小松莉奈
ベスト32 根本咲菜
- ◎女子ダブルス ベスト16 根本/小松ペア

硬式野球部

平成29年度東京新大学野球連盟の春季リーグ戦（2部）で6勝4敗という成績を残し、リーグ2位となった硬式野球部。目標としていた2部優勝・1部昇格には惜しくも届かず、悔しいシーズンとなりました。

10月現在、8/31（木）に開幕した秋季リーグの真っ只中。今季こそチーム一丸となって2部優勝を目指します！



サーフィンサークル



東洋学園大学公認サーフィンサークル「マーベリックス」に所属する英語コミュニケーション学科3年の猪狩さんが、日本学生サーフィン連盟（NSSA）主催の「2017年度全日本学生サーフィン選手権春季大会」においてメンクラス4位に入賞！ 猪狩さんは学業とサーフィンを両立させつつプロサーファーを目指すそうです。



小松選手



根本選手

東洋学園大学とともに歩んできた先生方の今

これまで多くの卒業生を送り出してきた7名の先生方から届いた

校友の皆様へのメッセージをご紹介します。

懐かしい思い出話とともに、近況もお知らせいただいています。



グローバル・コミュニケーション学部

大野 多加志 教授

(1988年教員就任。専門分野：フランス文学、演劇)

短大、四大あわせて30年ほどお世話になりました。短大時代は欧米文化学科に所属し、流山で教えていました。忘れられないのは2号館の4階に集会室があったことです。授業前や授業後に教員が顔を揃え、おしゃべりを楽しむのですが、いろいろな専門の先生がいらっしやって、気の置けない雰囲気の中にも大いに

刺激を受けたものです。

それから入学したての学生と一緒にいった箱根でのオリエンテーションキャンプも忘れられません。このキャンプは教員同士、学生同士、そして教員と学生の距離が縮まるよい機会だったと思います。

四大で思い出深いのは、演劇、映像制作の

「約30年間の日々を振り返ると忘れられない思い出ばかりです」

ゼミを担当したことです。若い知性が演劇や映像制作を通して成長してゆく様に立ち会えたことは本当に幸せでした。

現在は主にフランス語の授業を担当しています。外国語の勉強は努力したものが必ず目に見える形となって現れます。学生の皆さん、一生懸命勉強してください。



グローバル・コミュニケーション学部

荻野 博司 教授

(2013年教員就任。専門分野：ジャーナリズム、コーポレート・ガバナンス)

「目指すものを見つけて
突き進む学生たちを応援したい」

ご縁あって新聞記者生活を終えてから教壇に立ちました。第三者として臨む取材現場とは異なり、学生との直接のふれあいの日々です。勇気付けられたり、失望させられたり、山あり谷ありです。

なかなか火がつかない若者は少なくありません。就職指導では心配させられることも少なくありません。しかし、目指すものを見つければ突進する馬力を秘めていることは間違いありません。

2016年春から新国立競技場の「定点観測」を続けています。建設の様子を隣接する出版社の屋上から定期的に撮影す

る活動です。ゼミ生が2週間おきに輪番で担当していますが、お世話になっている出版社の役員は「一度も遅刻はありません」と感心しています。この撮影のリレーは今後も続けていきます。

あと3年で東京オリンピック、パラリンピック。半世紀前の熱気を知る古株としては、学生たちが大会ボランティアとして積極的に関わり、二度と味わえない体験を積み上げてもらうことを切望しています。それに応えてくれる学生は少なくないはず。本学の教職員も積極的に後押しする構えです。ご期待ください。



グローバル・コミュニケーション学部

長尾 悟 教授

(1994年教員就任、専門分野：国際関係論)

「長尾ゼミは、永遠にオープンです。
北軽井沢に『風雪』を
読みに来ませんか」

私が本学に赴任したのは、創立3年目の時でした。央戸寿雄初代学長から「国際関係とアメリカ政治を手伝ってほしいか」とお声をかけていただいたからでした。本学の特徴は充実したゼミ科目でしょう。当初は卒業要件として、①卒論+ゼミ2科目か、②ゼミ6科目(どちらも合計12単位)を選択しなければなりません。現在でも①卒論+3・4年次連続したゼミ科目か、②3・4年次連続したゼミ科目+4年次特別講義4科目(どちらも合計12単位)を選択しなければなりません。通常、ゼミというと合宿が一種の“華”

と言えるでしょう。私もゼミ合宿がまだに学生時代の良い思い出として残っています。その体験を本学学生にも味わわせたくて、'97年北軽井沢の浅間高原に十数人が泊まれる丸太小屋を作りました。以来、夏休みだけでなく、紅葉の秋、雪と氷に閉ざされる冬にもゼミ生たちがやって来ます。

ゼミ生たちは滞在した数日の心境を『風雪』という名のノートに自由に書いていくのが恒例となっています。卒業生諸君、若き日の自分をフィードバックして、現在を見つめ直すために、そろそろ『風雪』を読みに来ませんか。



グローバル・コミュニケーション学部

西村 由起子 教授

(1986年教員就任。専門分野：社会言語学、語用論、談話分析、外国語教育)

短大の英語英文科に非常勤として採用され、その翌年から専任としてこれまでの人生の約半数に渡る年月をお世話になりました。先輩・同僚の先生方、職員の皆様方の支えがあったことで、大変ありがたく感謝しています。

当初は本郷勤務でしたが、東洋学園大学創立2年目から流山、後日キャンパス再編成で本

郷に戻りました。この間アメリカを行ったり来たりし、サンタバーバラでの在外研修は、その後の科研費採択にもつながるデジタルコミュニケーション研究に大きな影響を与え、貴重な1年でした。また、国際交流活動にも力を入れ、学生が海外体験で目覚ましく成長し、自己実現する姿を見るのは大変うれしい経験です。

「卒業生の皆さんには、向上心を持って前進してほしいです」

授業では「ことばとコミュニケーション」や、言語関連科目を担当しましたが、受講生から若いエネルギーをもらい私も多く学びました。卒業生の皆さんには、もっと向上したい、という気持ちを大切に、目標に向かって諦めず、「意志あるところに道あり」をモットーに前進してもらいたいと思っています。

現代経営学部

井原 久光 教授

(2002年教員就任。専門分野：経営戦略、マーケティング)

私が初めて「フェニックスモザイク」に出会った時の感動は今も新鮮です。1960年代に学生達が持ち寄ったとされる茶碗やビール瓶の欠片を見て、最初は「何?」と思ったのですが「苔むした岩角に、人目をさけて咲くすみれの花…」というワーズワースの詩に触れて全てを了解しました。

それぞれの欠片は、小さなもの(a small thing)ですが、そのどれが欠けても大きな絵は描けないという意味で、普通のsmall thingではなく、それぞれの居場所で役に立っているa small, good thingだったのです。すぐに私は、誰も見ていない場所で精一杯に努力する人の清廉さに想いを馳せました。だって生きること

「A small, good thing (ささやかだけれど、役にたつこと)」

って、そういうことですから。

レイモンド・カーヴァーの名作"A small, good thing"を『ささやかだけれど、役にたつこと』と訳したのは若き日の村上春樹だったはずで、それは翻訳者としての彼の姿勢に通じます。15年間、モザイク画のある大学に勤められて本当に幸せでした。



教員メッセージ／社会で輝く卒業生



現代経営学部

北田 敬子 教授

(1985年教員就任。
専門分野: 英文学 コミュニケーション)

「東洋学園大学での切磋琢磨が
生涯の英語学習の
基礎となりますように!」

東洋女子短期大学英語英文科に勤務することが決まった時、そっと本郷校舎を見に行きました。正面の大きなモザイクを目にして、心が弾んだのを覚えています。学生時代から憧れの地・本郷で、32年間勤務することができた幸いに感謝しています。

短期大学が幕を閉じ、東洋学園大学に「現代経営学部」が開設されてからは、世界も、日本の社会も、そして本学園も荒波に揉まれる日々の始まりだったように思えます。「英語の東洋」という看板を下ろさずに突き進むのは、大きな挑戦でした。

英語教育開発センターが発足し、全学共通の有効な英語プログラムを作るための格闘が今も続いています。

「グローバルイゼーション」の名の下、英語をめぐる議論はますます熱くなっています。東洋学園大学での切磋琢磨が、卒業生の皆様の生涯にわたる英語学習の基礎となりますように! 私自身も、「教えるとは希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと」というルイ・アラゴンの有名な言葉を忘れずに、東洋学園での経験をこれからも大切にしていきたいと思えます。



現代経営学部

谷本 信 教授

(1985年教員就任。専門分野: 数理統計学、オペレーション・リサーチ、マーケティング・サイエンス)

「情報社会の中でも人間らしく
生き生きと活躍してほしいです」

短期大学時代の1975年に非常勤講師として流山キャンパスで情報科学を教えることになったのが始まりでした。当時は、パソコンは一般的ではなく、PC教室など夢の様な存在でした。しかし、学生たちは来たるべき情報社会に向けて熱心に授業に参加してくれました。少し込み入った情報科学の理論もしっかり理解して、教えることの楽しさを知ったのはそのときだったと思います。その後、東洋学園大学人文学部、さらに現代経営学部へと異動しながら、情報科学に関連する授業や統計学などを担当し、多くの学生

たちに接することができたのは、楽しい思い出です。

情報科学分野では、20年前に夢のような存在であったものが現実のものとして私たちの生活に入り込んでいます。たとえば、人工知能(AI)です。今後、生活の隅々に入り込んでくると予想されています。人々の生活は便利になる反面、淘汰され、無くなる物や仕事もあるでしょう。そのような中であっても、大学で学んだものを大切に、人にしかできないものを身につけ、主体的に生き生きと活躍されるように心から願っています。

社会で輝く卒業生

歯科医専、短大、4年制大学それぞれの卒業生をご紹介します。

社会でご活躍されている卒業生の姿から、本学の伝統や学びの歴史が感じられます。

旧制東洋女子歯科医学専門学校

魚島 恵子さん



敗色濃い1945(昭和20)年の雪の日、川越から東上線の無蓋貨車で大学の入試に向かって以来72年、人のために生きる歯科医師の仕事が生き甲斐です。特定分野に偏らない「五目の歯医者」をモットーに、患者さんとのコミュニケーションを重視して診療にあたっています。

一方で父譲りの伝統芸能好き、日本舞踊花柳流の師範です。「どんなに忙しくても踊りはやめない」というのが結婚の条件で、若い頃は朝8時から夜9時まで70人以上の患者を診ながら家族の食事は必ず手作りしていました。現在、孫の一人がグローバル・コミュニケーション学科の4年生として在学中です。

魚島(旧姓:後藤) 恵子(うおしま けいこ)

関西歌舞伎の劇評も書いた父の勤め先は大坂三品取引所、小学校まで兵庫県芦屋で育った。戦争で貿易が途絶え、後藤家は進学を考慮して上京し、埼玉県川越に移住した。1949年、東洋女子歯科医専を卒業し川越で開業。1957年に結婚、板橋区常盤台に移った。花柳流師範として名取を許したお弟子は10人以上。

東洋女子短期大学

菅原 千津さん



東洋女子短大在学中に「異文化コミュニケーション学」に興味を持ち、のちに米国の大学に編入。ミネソタ州立大学ウィノナ校では、留学生とともに自国の文化を紹介する国際交流プログラムのコーディネーターとして従事。大学院で「スピーチコミュニケーション」や「異文化コミュニケーション学」の講師を務めたことが現在のキャリアの原点となりました。帰国後、1999年から数年間、東洋女子短大で教鞭をとり、2007年から東洋学園大学で英語の非常勤講師を務めています。卒業生として母校の教育に携われることを大変光栄に思っています。現在もホストファミリーなどをして、異文化交流を楽しんでいます。

菅原(旧姓:中村) 千津(すがわら ちづ)

1989年東洋女子短期大学欧米文化学科を卒業後、都内の商社に就職。その後、米国大学に編入、シカゴの日系企業での就職を経てミネソタ州立大学マンケート校にてスピーチコミュニケーション学修士号を取得。現在、大学非常勤講師や企業での異文化コミュニケーション講師などを兼任。

東洋学園大学

瀧澤 容子さん



私は2010年に本学を卒業し、出版社にて教科書の校正、翻訳、営業の仕事をしていただいた時期もありますが、2015年4月より、アロハインターナショナルスクールで働き始めました。

思えば幼少期の夢は保育士になること、また大学在学中に思い描いていた夢は英語を使う仕事に就くことでした。現在はその2つの夢を同時に叶えることができ、天職と巡り合えたことに本当に感謝しています。子どもの成長は早いもので、1年前は母語すら話せなかった生徒の口から「I'm happy!」と聞いたときの感動は言葉では表せません。

瀧澤 容子(たきざわ ようこ)

2010年東洋学園大学人文学部国際コミュニケーション学科卒業。在学中はESS(英会話部)の部長を務める。インターシップ制度を利用し、本学に滞在したイギリス・アストン大学の学生とは現在でも親交がある。

教育振興資金のお願い／東洋学園の歴史

東洋学園大学教育振興基金協力のお願い

東洋学園（旧制・東洋女子歯科医学専門学校、旧制・東洋高等学校、東洋女子短期大学、東洋学園大学）は、1926年（大正15年）の建学以来、本年をもちまして創立91年を迎えました。これもひとえに皆様からのご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

本学は①時代の変化に応える大学、②国際人を育てる大学、③面倒見のよい大学、を目指し、その実現のために教育環境の整備・充実に日々努めております。昨年度の入学生からは、全学部を東京・本郷キャンパスへ統合し、「一体型都心キャンパス」を実現いたしました。

た。東京の中心という利便性に加え、教育資源を集約することで教育と研究の質が高まり、また、他学部生との交流の活性化や教職員のサポート体制の向上など、今まで以上に充実した学びの環境を創出します。

創立100周年に向けて本学を未来に

つないでいくためには教育機能のさらなる強化が必要であり、諸事ご多端の折、恐縮ではございますが、本学の募金活動への一層のご協力を切にお願い申し上げます。

東洋学園 理事長 愛知 太郎

募金目的

- 一、キャンパス教育施設設備の充実：
校舎やグラウンド等キャンパスの教育環境の整備を行い、快適で、安全な教育環境を提供します。
- 二、奨学金制度の充実：
学業の奨励と経済援助を両輪として、留学時の負担軽減にも配慮して、有為な人材の育成に資するよう、心の通った奨学金制度を確立します。
- 三、教育・学術等の研究奨励、振興：
教育・学術の研究奨励、海外派遣等に資する為、毎年度計画的に基金の増額を図り、効果的運用を推進します。
- 四、学生の課外活動の奨励：
大学内のスポーツや文化活動を活性化し、東洋学園大学への愛校心がさらに高められるよう、全学をあげて支援します。
- 五、その他：
教育研究の質的向上を図るため、ITを含めさまざまな面から施設環境の一層の充実を図ります。

募金目標額

2千万円

募集期間

平成29年7月～平成30年3月

寄付金種別

1口 1万円

※金額の多寡に関わらずありがたくお受けします。ご寄付いただいた方は大学広報誌にお名前を掲載させていただきます。寄付申込書にて、掲載の可否をお知らせください。

募集対象

在学生とごご父母等、同窓生とごご家族、教職員その他本学関係者

申込・送金方法

別紙寄付申込書にご記入いただき、同封の封筒にてご返送ください。送金につきましては、同封の振込用紙をご利用いただくか、クレジットカードによりお振込みください。金融機関、クレジットカード会社からの入金通知を受けた後、大学より領収書をご送付申し上げます。なお、この募金は「任意」のものです。

お問い合わせ先

学校法人 東洋学園 法人本部
〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 TEL 03-3811-1731

東洋学園大学教育振興資金寄付者ご芳名（敬称略・50音順）

（平成28年4月～平成29年3月までにご寄付いただいた方） 青木 茂子、秋山 幸子、芦川 一夫、荒木 淳一郎、岩品 富敏、岩瀬 一輝、魚島 恵子、海登 昭子、森原 裕子、小暮 吉久、酒井 治美、佐々木 壽洋、佐藤 英之、杉本 勲、高木 哲、高柳 百合子、多々良 泰行、富永 明彦、中谷 伴治、樋口 富美子、福井 麗子、細谷 誠、村山 晴美、森口 久茂、盛山 徹、山崎 道恵、山本 寛之、一般財団法人ワンアジア財団代表理事 佐藤 洋治、本郷吉坂坂太鼓代表 藤沢 八洲彦、氏名掲載を許諾された方以外のご寄付者87名

東洋学園の歴史

第5回

専門学校1回生と指定後1回生

東洋学園史料室

学校法人東洋学園は昨秋、創立90周年を迎えました。

1926（大正15）年11月4日に創立した社会的意義とは、女子の歯科教育機関として最初に文部大臣指定専門学校（旧制）の水準に達したことです。当時は指定校の課程を修了することが歯科医師免許の交付要件とされ、非指定校卒業生は国の厳しい検定試験にパスしなければなりません。

現代の自動車運転免許と同じです。指定教習所を卒業すれば運転免許試験場の技能試験が免除されますよね。国の基準を満たした指定校は、非指定校より志願者募集が圧倒的に有利となり、市場原理による淘汰が進みます。それによって文部省は歯科

教育の水準を高めようと思ったのです。

指定を得る前は経営主体が異なり、明華（めいか）女子と称していました。今年（2017年）はこの前身校が開校してから満100年です。明華は1917（大正6）年9月12日に講習所で始まり、歯科医学校（各種学校）を経て歯科医学専門学校（正規高等教育機関）へと発展しながら、最後の指定認可申請で力尽きました。

1917年から26年までは波乱万丈、学校史として面白い要素が目白押しです。この9年間を本学の創立期と位置づけ、2016年からシリーズ特集しています。今年度後期は最後の創立期シリーズ5を公開します（8面参照）。

明華校は各種学校で3回（1919・20・22）、専門学校で2回（1923・24）、計5回150名弱の卒業生を出しました。前号で各種学校1回生に触れたので今回は専門学校から。同1回卒業生は帝京大学グループを創設した沖永荘兵衛夫人で共同経営者の沖永（旧姓：猪野）キン、歯科技工士分野で女子初となる東京女子歯科技工学校（現存せず）を設立した工藤アヤを輩出しています。

沖永キンは帝京商業学校の創設に際し、沖永歯科医院の院長として教員（失業中）の夫を支え、戦後次々と設立するグループ校の理事長、校長を歴任しました。専門学校第1回入学生（1922年）が卒業



旧成家歯科医院は佐原の重要伝統的建築物群保存地区にあり、伊能忠敬旧宅・記念館に隣接しています。



するまでに指定認可を得るため、震災と二度の修業年限延長を経て経営陣も交代し、1926年11月5日の卒業式前日に認可を得ました。東洋女子最初の卒業生となった一人、成家玉（なるやたま）はさらに東京帝国大学医学部歯科学教室に進んで研鑽を積み、1928（昭和3）年に千葉県佐原で開業しました。



明華女子歯科医専第1回入学生、後の東洋女子歯科医専指定後第1回卒業生です。写真は1922（大正11）年の入学時と思われる、場所は現本郷1号館の旧吉坂殿側です。

1967（昭和42）年9月7日に流山校舎竣工式を挙行し、同キャンパスを開いてから本年（2017年）で50周年を迎えることから、「流山キャンパスの半世紀（仮・予定）」を特集します。流山の思い出、思い出の品*、写真などをお寄せいただければ幸いです。

*既にご寄贈が多数に及ぶため教科書は対象外とします。



大学院／入試

実務に直結した経営学の学びの場

東洋学園大学大学院 現代経営研究科 現代経営専攻修士課程

東洋学園大学大学院は、2017年度4月から国際資格であるファイナンシャル・プランナー（FP）のCFP[®]認定教育プログラム実施大学院となりました。卒業生の皆さん、母校でキャリア・アップ、学び直しを検討してみませんか。

2008年に開設された本学大学院は、定員10名と小規模ですが、丁寧な指導体制の下、社会に役立つ人材を輩出しています。2017年4月からは国際資格であるファイナンシャル・プランナー（CFP[®]※）の認定教育プログラム実施大学院となっています。所定の課程を修了すると、大学院の修了時に経営学の修士号と共に、AFP（Affiliated Financial Planner、FP2級と同等かそれ以上のレベル）を取得し、CFPの受験資格を得ることができます。



2017年2月、日本FP協会の理事長（左から2人目）が本学を訪問

東洋学園大学の卒業生、ならびに2年以上の実務経験がある東洋女子短期大学の卒業生は大学院を受験することができます。大学院生は科目履修に加え、指導教員から専門研究分野の修士論文の執筆指導をマンツーマンで受けます。短大卒業後に金融機関を経て母校で学び直した人や、子育てをしながら大学院の学位を取得した人もいます。さらに、本大学院は社会人や主婦が1科目から聴講できる「科目等履修生制度」や「学費月払い制度」を設けています。

大学院の受験書類の準備をアドバイスする出願対策講座は11月19日（日）および2018年2月3日（土）に本郷キャンパスで開催されます。

ぜひ、母校でのキャリア・アップ、学び直しを検討してみてください。

※CFP[®]：
Certified Financial Planner

現代経営研究科の特徴

■専門研究分野（一例）

経営戦略、マーケティング、人的資源管理、経営組織論、ファイナンス、会計、日本の経営システム、グローバル人材開発、グローバル経営、国際経済学、労働経済学、環境経営、労働と所得格差、介護ビジネス、スポーツ・ビジネス、デザイン・マネジメント、ソーシャル・ビジネスほか、多彩な研究分野から関心のあるテーマについて学術論文を書くことができます。経営戦略、マーケティング、人的資源管理、経営組織論、ファイナンス、会計、日本の経営システム、グローバル人材開発、グローバル経営、国際経済学、労働経済学、環境経営、労働と所得格差。

※大学院ホームページで過去の修士論文タイトルを公開中です。

<http://www.tyg.jp/faculty/grad/masters.html>

■修了後の主な就職先（一例）

シティバンク銀行株式会社、藍澤証券株式会社、アディダスジャパン株式会社、王子コンテナ株式会社、シティバンク銀行株式会社、藍澤証券株式会社、アディダスジャパン株式会社、その他の民間企業やNPO法人などだけでなく、海外でも活躍しています。

お問い合わせ先

大学院経営セミナー、
現代経営研究会に関するお問い合わせ

大学院事務局 TEL：03-3811-1696

東洋学園大学入学案内

本学では、校友の皆様にも卒業後も学びの場を提供し続けたいと考えております。

編入学（3年次）や大学院、科目等履修制度などのキャリアアップ、リカレント教育の場を、学びの段階に応じて設けております。

編入学、大学院入学に際しましては「入学金免除制度」をご用意しております。また、この「入学金免除制度」は皆様のご親族（二親等以内）が本学ご入学の際にもご利用いただけます。懐かしの学び舎が、皆様の新しい学びをサポートします。

■入学金免除制度

本学園卒業生ご本人、在学生及び本学園卒業生のご親族（二親等以内）が本学に入学の場合、入学金（300,000円）を免除する制度です。※人数の制限はありません。

■編入学（3年次）／大学院

編入学（3年次）【本郷キャンパス】

各学部の専門分野への強い関心と学ぶ意欲を持つ方の入学を求めています。

グローバル・コミュニケーション学部

グローバル化する世界を生き抜き、国際社会で活躍するために、世界についての専門知識や高い英語力を身につけます。▶グローバル・コミュニケーション学科 ▶英語コミュニケーション学科

現代経営学部 ビジネスや経済の中心地で、実在する企業やビジネスを題材にケーススタディ。

まさに「現代」の経営を学ぶ学部です。▶現代経営学科

人間科学部 心理、カウンセリング、子ども、社会、スポーツ・・・いろいろな角度から人間

を幅広く学び、人を支え社会に貢献する人を目指します。▶人間科学科

大学院

現代経営研究科 現代経営専攻（本郷キャンパス）

経営学における専門性と高度な知識を持つ職業人を育成するための高度教育機関です。

※出願資格等については入試室までお問い合わせください。

■科目等履修生制度

東洋学園大学では、大学の持つ知的財産を広く社会に還元するために、科目等履修生制度を開設しています。大学院、学部ともに、開講される授業科目について、正規の学生の教育、研究に支障のない範囲において履修が認められ、単位取得が可能です。短期大学ご在学中に、教職課程を履修されながら課程修了に単位不足の方、新たな学問に取り組みたい方など、ぜひ本制度をご活用ください。本制度を利用して、日本語教員養成課程を履修し、課程修了を目指す短期大学卒業生もいらっしゃいます。卒業生が熱心に勉強に取り組む姿勢は、大学生にも良い刺激を与えてくれています。なお、大学院では大学卒業、学部では高校卒業の資格を要するなど、本制度の詳細は以下にてご確認ください。

※検定料等

	検定料	受講料	単位認定料
大学	10,000円	5,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)
大学院	10,000円	10,000円(1単位当り)	10,000円(1科目当り)

お問い合わせ先 教務課

本郷キャンパス【TEL】03-3811-1785 流山キャンパス【TEL】04-7150-3068

<http://www.tyg.jp/faculty/complete.html>

お問い合わせ先

編入学、大学院入試、
入学金免除制度について

入試室 0120-104-108（フリーダイヤル）E-mail: nyushi@of.tyg.jp

受付時間：平日（月～金）9:00-17:00 / 土曜日9:00-13:00 ※大学の定めた休日を除く

インフォメーション

卒業生に開かれた学び

東洋学園大学では「開かれた大学」を目指し、研究・教育の蓄積を皆様と広く共有するべく、研究会や公開講座を開催しています。

現代経営研究会

企業の皆様と本学教員との相互研鑽、交流を通じ、現代の経営諸問題について研究し、生きた経営ノウハウを蓄積したいと考え、2008年に大学院創設と同時に「現代経営研究会」を発足いたしました。本研究会は無料でどなたでもご参加いただけます。詳細はHPをご覧ください。

<http://www.tyg-business.jp/>

開催場所：東洋学園大学 本郷キャンパス

1号館 2階 フェニックスホール

※講演は18:00～19:30で聴講無料。講演会の後、懇親会（年間会員無料、当日参加お一人様あたり500円）を予定しています。



11月8日(水) 講師：株式会社松屋 取締役 常務執行役員 古屋 毅彦氏

演題：『人が支える個性的な百貨店』

11月15日(水) 講師：株式会社ジェンコ 代表取締役 真木 太郎氏 (映画プロデューサー)

演題：『プロデューサーの仕事とは何か』

12月6日(水) 講師：株式会社リンクアンドモチベーション 代表取締役会長 小笹 芳央氏

演題：『従業員のモチベーション・マネジメント』

公開教養講座 (流山)

学内外の講師を招き、現代社会に焦点をあてたテーマで講演していただきます。

(5月～12月開催、全7回) <http://www.tyg-koukai.jp/>

11月11日(土) 講師：株式会社リディアバ 代表理事 安部 敏樹氏

演題：『ソーシャルビジネスとしてのスタディツアー ～社会の無関心を打破する』

12月2日(土) 講師：東洋学園大学教授 古屋 力氏

演題：『地球環境と人間に優しい社会の実現は可能なのか
～世界一幸福な国デンマークから学ぶこと』



13:00～15:00、流山キャンパスにて

各回1,000円、予約不要。直接会場へお越しください。

お問い合わせ先 東洋学園大学 公開教養講座受付係
【TEL】04-7150-3001(代)

※流山キャンパスでは、英語や中国語などの語学講座をはじめ、テニス、心理学など本学の特徴を活かした講座、絵手紙や色を使ったイメージアップセミナーなど年間100講座を超えるエクステンションプログラムを開講しています。

来年度の講座詳細については、決定次第HPにてお知らせいたします。 <http://www.tyg-ex.jp/>

学内施設利用について

図書館利用のご案内 (本郷・流山)

利用登録をすれば卒業生も本学図書館を利用することができます。登録は無料。卒業を証明するもの(学位記またはそのコピー、大学からの郵便物、卒業証明書等)と、現住所を確認できるもの(運転免許証、健康保険証等)を図書館カウンターまでお持ちください。「図書館利用証」を発行します。

【利用できるサービス】

閲覧、文献複写、貸出(図書のみ3冊まで、期間：2週間)

詳しくは図書館ホームページをご覧ください。 <http://www.lib.tyg.jp/>

史料室のご案内 (本郷)

東洋学園創立90周年・前身校開校100周年記念

●シリーズ4「創立期の東洋女子歯科医学専門学校II

一初的女子歯科医専、女子初の文部大臣指定校 1921～1926」展 ～2017年11月17日

●シリーズ5(終)「没後50年 一創立者・宇田尚の時代 1926～1950」展(仮)

2017年12月11日～ 見学・解説書無料

【場所】本郷キャンパス4号館6階 【開館日】月～金 9:30～16:30

詳しくは東洋学園史料室ホームページをご覧ください。 <http://www.tyg-archives.jp/>

各種証明書の発行等について

各種証明書(卒業証明書、成績証明書)の発行

卒業時の所属学部・学科

・大学〔人文学部〕2007年(平成19年)4月以降の卒業生

・大学〔現代経営学部〕卒業生

・大学院〔現代経営研究科〕修了生

・短期大学〔英語科、英文科、英語英文科〕卒業生

・短期大学〔専攻科〕修了生

お問い合わせ先

本郷キャンパス教務課 〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3

卒業時の所属学部・学科

・大学〔人文学部〕2007年(平成19年)3月以前の卒業生

・短期大学〔欧米文化学科、英語コミュニケーション学科〕卒業生

お問い合わせ先

流山キャンパス教務課 〒270-0161 千葉県流山市鮫ヶ崎1660

*郵送での申し込みと窓口での申し込みができます。ただし卒業キャンパス以外での発行はできません。詳細はホームページをご覧ください。

【HP】 <http://www.tyg.jp/graduate/certificate.html> *個人情報の変更は各同窓会へご連絡ください。

東洋学園大学同窓会からのお知らせ

～異動調査ご協力をお願い～

東洋学園大学同窓会からのお知らせです。すでに本会会員の皆様のお手元には本年度の会報、異動調査票(対象卒業期のみ)など一式が届いているものと存じます。異動調査につきましては、本会HP(<http://tgual.jp/>)からも随時受け付けておりますので、本年度が対象となっていない皆様におかれましても、ぜひともご協力をお願いいたします。

いただきました会員情報につきましては、厳重な管理を行った上で、同窓会の主旨に基づき、本会の活動、学園、母校の発展、および在学生の後援のために活用させていただきます。

お問い合わせ先 東洋学園大学同窓会室(原則毎週木曜日)

【住所】〒270-0161 千葉県流山市鮫ヶ崎1660 【HP】 <http://tgual.jp/>

東洋女子短期大学同窓会からのお知らせ

事務局は定期的な開室はしておりませんので、お問い合わせやご質問等に、早急にお返事することはできませんが、鋭意努力いたしますので、しばらくのご猶予をいただけますようお願いいたします。なお、住所変更や会報に掲載する記事につきましては、従来通り、メール、FAX、郵送等にて、同窓会室までお願いいたします。

ご連絡先

【住所】〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3 東洋学園大学内 東洋女子短期大学同窓会

【TEL/FAX】03-3811-5102 【E-mail】 dosokai@ec.tyg.jp

【HP】 <http://www.tyg.jp/graduate/index.html>

校友会事務局より

東洋学園大学が1992年に開学し25周年を迎えました。おかげさまで今春の学部入学人数は定員(655名)を大きく上回る795名(5月1日時点)でした。しかしながら今後の18歳人口の減少等大学

を取り巻く環境は厳しいものがあります。ぜひ校友の皆様には「東洋学園ファミリー」として今後もお力添えいただければありがたく存じます。

【企業で活躍する卒業生の方へ】就職活動中の学生によるOB・OG訪問を受け入れてくださる方を募集しています。業界や企業への理解、職業観などを伝えてくださる方、就職支援に関わっていただける方は事務局までご連絡ください。

校友会事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷1-26-3

東洋学園大学 本郷キャンパス1号館2階

TEL 03-3811-1072

E-MAIL koyukai-info@tyg.jp

ホームページ <http://tgblog.tyg.jp/koyukai/>